

2003年7月29日

FAI ハンググライディング & パラグライディング委員会(CIVL)  
2003年2月21～22日 総会議事録  
シナイア(ルーマニア)

翻訳・文責

社団法人 日本ハンググライディング連盟

阿部 郁重 安全性委員長

岡 芳樹 安全性委員会

伊澤 光 PG 競技委員会

関谷 暢人 常任理事

JHF訳語表

注：訳語はJAAの資料を参考とした。

原語	訳語
accuracy	アキュラシ
aerobatic	曲技
Annex	追録
approve	承認
bid	立候補
Bureau	総局
By-Laws	付随定款
CAT	カテゴリー
CIVL President	CIVL委員長
Continental Championships	大陸選手権
Competition Director	競技委員長
Director	実行委員長
Executive Board	執行役員会
Officer	役員
Regulation	規定
Secretary General	事務局長
Secretariat	事務局
Spotting Code	スポーツ規定
Statutes	定款
sub committee	小委員会
validation	確認
World Air Games	ワールドエアゲームズ
working group	作業部会
WPRS	世界ランキング(World Pilot Racing System)

(本文)

短い追悼が Ann Welch, Walter Neumark, Gerard Blandin, Henrik Jensen のためにあった。

参加国: オーストラリア、ブラジル、カナダ、クロアチア、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ(オーストリア委任状)、ギリシャ(キプロス委任状)、アイスランド、イタリア、日本、リトアニア、オランダ、ポルトガル、ポーランド、ルーマニア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、トルコ、英国、米国

ノルウェーとカナダは代理

欠席: キプロス、中国、オーストラリア

26 票(過半数: 14、3分の2以上: 18)

#### 1. 議題承認

CIVL 内部規定の改定(追録1)

満場一致で可決

#### 2. 2002年総会議事録の承認。補正予算承認。

CIVL 委員長報告(追録2)

#### 3. 事務局長報告

(1) ワールドエアゲームズ(WAG)

ア、新たに開発するフォーマットによる次期 WAG の推進を決定。

イ、次期イベントは規模を縮小し、メディアを重視する。

ウ、次期開催地の立候補受付期限は、2003年秋の執行役員会(Executive Board)に間に合うよう同年夏までとする。

エ、新イベントの管理計画は、専門的になさなければならない。

(2) その他の事項

ア、Jean-Marc Badan が2002年4月推進担当員(promotional manager)に就任。(jmb@fai.org)

イ、2005年を FAI の100年祭(100th anniversary)の年とすべく特別な努力がなされており、新しいロゴを作成し、FAI の歴史書を編さん中。

#### 4. 新しい大陸選手権推進のための総局(Bureau)の提案

3チームしか参加しない選手権の有効性及び参加全チームがメダルを受け取るかもしれないことが疑問視され、認められた。

#### 5. 2002年度選手権の回顧

ア、米国、シェランにおける女子及びリジット HG 世界選手権

多くの困難もあったが、飛行とタスク設定が良かったので成功であった。

問題点は、プレの大会がなかったこと、また CIVL はそのことを強制しなかったことをあやまった。

イ、スロベニアにおけるヨーロッパ HG 選手権

成功であった。セクション7について改定案が出た。

ウ、スロベニアのヨーロッパ PG 選手権

死亡事故1件があったが大会は大成功であった。CIVL は報告待ち。

#### 6. HG 小委員会の報告と提案(追録3)

いくつかの討議があり満場一致で可決。ブラジル(HG 世界選手権)とオーストリア(クラス1, 2, 5)のローカル・レギュレーションが承認された。ミラウで開催予定のヨーロッパ選手権についてのローカル・レギュレーションは未着。

#### 7. PG 小委員会の報告(追録4)

Xavier Murillo が報告書提出。

カテゴリー2競技と質問書の使用について若干の討議があったが、満場一致で承認。

#### 8. アキュラシ・ランディング作業部会報告(追録5)

Riikka Viikuna は競技は雨天のため不成立となったが、組織とエリアは良好であったと報告。

アキュラシの改定案が承認されセクション7に重複箇所を除いてとり入れられることになった。

#### 9. カテゴリー1競技参加選手の選抜手続

特に追加討議なし。

#### 10. 記録、記章、飛行確認小委員会

Anestis Paliatsos が新委員長に就任。世界記録の規定は改定する必要がある。記章及び記録飛行用として認められたバログラフは98/99年以降変っていない。増加する記録に対処するには期限切れで校正が必要である。記録に関するGPSの確認についても認定書が必要である。

#### 11. 立候補

以下の申し出があった。

(1) 2005年パラグライディング世界選手権: フランスのモアジン、ブラジルのゴベルナルドルパラダレス。

(2) 2005年ハンググライディング世界選手権: オーストラリアのヘイ、米国のフロリダ。

パラグライディング小委員会は候補評価について助言をし、ブラジルは回答の機会を要求した。彼らは文書回答による承認が認められている。

(3) Jorg Vogel はオーストリアで行う2004年の女子世界選手権及びクラス2 & 5の世界選手権について簡単に説明した。

ギリシャのヨーロッパ選手権の準備状況について Anestis Paliatsos が短い報告書を読んだ。

#### 12. 安全・トレーニング小委員会報告(追録6)

Klaus Tanzler から European HG&PG ユニオンについて紹介があった。

彼らのウェブサイトは [www.ehpu.org](http://www.ehpu.org) で、安全性とトレーニングに関することだけを扱う。

シリアルクラスについても触れたが詳しい討議は土曜日の朝まで持ち越しとなった。全員承認。

#### 13. PG と HG の WPRS(世界ランキング)作業部会

Paula Bowyer が進展状況について簡単に説明した。現在 PG のデータを入れるために非常に時間をかけている。スコアリングシステムにデータを入力するプログラムを開発するため、総局(Bureau)に予算を振り向けることで合意した。スコアの確認と RACE も一つの問題である。Paula が、新しい PRS についての問題の報告書を書く。Stefan Mast が PWC の結果を Race フォーマットに変換する文書化された簡単な変換プログラムを提出すると述べた。Angelo Crapanzano がデータ入力、スコア確認、その他の問題を調整する。この間、1年間試験運用してみて、総会としてその価値を判断する。HG と PG のランキングが CIVL のウェブサイトで見えるようになれば、CIVL Info で発表する。

担当: Paula Bowyer, Angelo Crapanzano

#### 14. クラス定義部会

クラスの定義は広く受け入れられているようである。クラス2とクラス5にそれぞれの世界記録が認められるようにするため、クラス5が提案された。棄権2で合意。

#### 15. DHV オンライン・コンテスト

DHV オンライン・コンテストについて、Rudl Buerger から興味深い提示がなされた。詳細は [www.dhv.de](http://www.dhv.de) を参照。

#### 16. 曲技作業部会報告(追録7)

Oliver Burghelle から進展状況が簡単に報告された。今のところ PG について作業を進めているが、まもなく HG についても始める。責任について質問があったが、彼は作業継続の承認を求めた。7名棄権で合意。

土曜日(22日)

出席国:省略

#### 1. ノルディックの提案

第1点. Mark Presson が、これは安全問題上の構想であるとして賛意を表明した。反対 13 で否決。第2点. 安全性が改善されるかどうかで討議された。この案によれば各国のトップ級 2~5 名のパイロットが最新の翼で競技することを依然として希望するであろうが、この提案ではプロトタイプでの競技を望まないパイロットにそれをする機会を与える。世界選手権に2つのタイトルが出来る事になる。反対 14 で否決。

#### 2. 次期選手権地決定

2005年 PG 世界選手権、ブラジル。

2005年 HG 世界選手権、オーストラリア。

#### 3. セクション7について

セクション7の内容を HG・PG・記録等に分ける案。各国代表に送付し来年の総会までにコメントを求める。

担当: John Aldridge

変更点を読み上げられ、僅かなコメントがあった。提案された変更点はウェブで公表されているが、HG と PG の小委員会はそれぞれの会合でいくつかの改定をした。可決。

4. 今後の WAG

Oliver は、新しいフォーマットについて提案の概要を示した。出席者はこれを読む時間を望んだ。Urs Durbach は PG のフォーマットについて助言を提示し、投票の結果可決された。関連書類について投票し、可決された。ただし曲技については7名が棄権した。

5. 予算

オーガナイザ・ガイドラインの書き替えのため、Xavier Murillo に 1000 ユーロを管理雑費として認めた。この費用は World Cup にも使われる。2004年度予算は可決。

6. Eva Menyhart 競技会

3年前に死亡したパイロットの追悼大会で、簡単な説明があった。

7. 授賞紹介

山崎勇祐氏の功績を読み上げられ、授賞を可決。

Dennis Pagen には FAI スポーツメダル授与。

この会議のために努力された Leonard Grigorescu に FAI 文鎮を授与。

8. 役員選出

CIVL 委員長 Olivier Burghelle 再選。以下略

9. 次期会議の予定

総会: 2004年2月27日~28日。26日に作業部会。

場所はガテマラとクロアチアが立候補し、クロアチアが3分の2の票を獲得して決定。

ただし、会期は2004年2月20日~21日に、小委員会の作業部会は19日に変更。

## 追録 1

### CIVL 内部規定

2003年2月21日改定 (注:BL は付随定款)

#### 目次

1. 一般条項
2. 構成員
3. 総会
4. CIVL 総局
5. CIVL 役員
6. 小委員会
7. 作業部会
8. 技術・連絡役員
- 追録1: CIVL 長期計画
- 追録2: 常設小委員会委託条件

#### 1. 一般条項

##### 1.1. 基本条項 (constitution)

国際ハンググライディング委員会 (CIVL) は、HG と PG に関するすべてに責任を負う FAI の常設委員会である。CIVL の事業は、すべて FAI 定款、付随定款、スポーツ規定の総則及びそれらの内部規定に従うものとする。

##### 1.2. 組織

CIVL は以下の組織により構成される。

- a. 総会。これは CIVL の統括主体である。
- b. CIVL 総局。総会により選出される。
- c. 小委員会

##### 1.3. CIVL の用語

CIVL の活動に使われる用語は英語とし、全ての文書、議事録、規則類は英語で作成され、提示される。

##### 1.4. 技能証明

CIVL は以下のことを勧告する。すなわち、各国の FAI 会員は、他国の FAI 会員が発行した IPPI (国際パイロット技能証) カードを技能証とともに自国の行事で自国のものと同等と認める。

##### 1.5. 授与

CIVL は、FAI 付随定款に従って記章、ディプロマ (賞状) 等を授与することができる。CIVL の権限のもとに行われる認定と手続きは追録に規定されている。

##### 1.6. 内部規定の改定

この内部規定は、FAI 定款、付随定款及びスポーツ規程の総則に改定があったときは自動的に改定される。

##### 1.7. 修正

この内部規定を修正するには、CIVL 総会における3分の2の多数決を必要とする。

#### 2. 構成員 (BL5.3)

##### 2.1. CIVL の構成

CIVL は、FAI 付随定款第 5.3 項に従い FAI 会員により指名された代表又は代表代理により構成される。全ての代表及び代表代理はその国の会員を代表し、CIVL の議事における各発言、行動及び提案はその FAI 会員の代わって、つまりその国の HG 及び PG の代表とし行われる。

##### 2.2. CIVL の役員と職員 (official)

全ての CIVL の役員及び職員は、自国の FAI 会員の支持を得ていなければならない。

### 3. 総会

3.1. 権限(BL5.7.3)。総会は CIVL の政策立案・決定機関で、手続き及び行動の権限は必ず総会に基づくものとする。(第 4.3 項も参照)。

#### 3.2. 時間表と計画

総会は毎年、2月か3月に2日から4日(週末を含む)に渡って開かれる。それは総局と小委員会の会議の後、又は含まれる形で開かなければならない。会議の計画と時間表は CIVL 委員長が作成する。

#### 3.3. 開催地(BL5.6.3)

FAI 付随定款第 5.6.3 項は、CIVL の会議は通常 FAI 本部で開催するように定めている。しかし3分の2以上の同意が得られれば、代表が提案した候補地について投票により選んでもよい。開催組織は、少なくとも1台のプリンタ付きコンピュータと複写機を持つ通常の AV 器材を備えた十分な会議施設を無料で準備しなければならない。開催組織はまた、FAI 事務局長から派遣される FAI スタッフ 1 名の旅費と実費を支払わなければならない。

#### 3.4. 開催通知

CIVL 委員長は、会議の少なくとも75日前に開催を通知するものとする。

#### 3.5. 議題

##### 3.5.1. 議題の提案

議題は、CIVL 委員長が決定する。議題の提案は、文書にし会議の前60日までに到着するように FAI 本部が CIVL 委員長に提出する。総会は、議題にない事項を最終決定することはできない。(BL5.6.4)

##### 3.5.2. 議題の通知

議題と開催通知は、開催日の少なくとも45日前までに発送する。

##### 3.5.3. 内容

議題は少なくとも以下の内容を含まなければならない。

a. 前回会議の議事録

b. 以下の報告書

-前回会議以降の CIVL 委員長並びに CIVL の活動について CIVL 委員長報告

-前回会議以降の FAI の活動に関する FAI 事務局長の報告、事務局長が出席出来ないときは CIVL 委員長が報告。

-各小委員会議長の報告。

-会計について会計系の報告

c. 実施された選手権について概要報告

d. 今後のファーストクラス・イベントについての立候補

e. CIVL 予算

f. 委員長、副委員長、書記、会計系の選出

##### 3.5.4. 討議事項

第3、7、2項に規定された事項を除き、会議開催の45日前までに配布された議題についてのみ討議し、総会として決議する。議題の背景となる基礎資料があるときは回覧する。

##### 3.5.5. 報告の要約

総会中に発表された報告の要約を、要点を明確にして総会終了の前に CIVL 書記に提出しなければならない。

#### 3.6. ファーストクラス・イベントの立候補

##### 3.6.1. 大会の3年前

大会の3年前に、CIVL の会議に立候補を通知する。この段階でのみ CIVL により承認される。立候補通知は個人名で文書で行い、NAC の確認書(letter of confirmation)を添える。その中に、プレ大会又はハーサル大会の準備状況を含める。この3年前の通知は望ましいもので、絶対的ではない。もし間に合わなかったときは、下記の2年前立候補手続きに確実に行わなければならない。

##### 3.6.2. 2年前立候補の手続

大会2年前の CIVL 会議の少なくとも60日前までに立候補を申請しなければならない(第 3.5.1 項及び 3.5.3 項参照)。この会議には個人名で第 3.6.5 項に示された細部の全文と大会開催地自治体(local

authority) 支援する旨のレターを添えて提出する。大会実行委員長と世界選手権のときは、できれば自治体幹部代表者が出席する。大陸選手権の場合、申請する NAC の属する大陸の場合は代表だけでよい。申請書には、サイトは又はオーガナイザーが新しいときには、CIVL に指名されたインスペクターからのサイトレポートを添える。立候補に関する他の費用と同様に、サイトレポートの費用もオーガナイザーの負担とする。総会は、適当と認められた申請一つを認可する。

### 3.6.3. 大会前年

ローカル・レギュレーション、エントリーフォーム、予算とメディアに対する準備及び主要役員名を提示する。

### 3.6.4. 選手権が認められなかったとき

大会2年前になっても CIVL が計画を認めることができなかったときは、CIVL 総局はオーガナイザーを探す。もし適切なオーガナイザーが見つかって、立候補の書類を受けとったときは、総局は大会を認めてもよい。このように判断したときは CIVL の総会で承認を受ける。

### 3.6.5. 立候補

立候補の申請にあたっては、セクション7のチェックリストに規定された事項の他に申請書に少なくとも以下を含めなければならない。

-安全対策

-競技計画の記述の外、サイト、通常のコンディション、前に行われた大会、予定参加者、競技委員長の経験など。

-大会実施国 FAI 会員の承認書

-CIVL に対する立候補金500スイスフラン。大会が認められなかったときはこの金は払い戻される。この金額は、公認費の一部にあてられる。

-ローカル・レギュレーションの原案

### 3.6.6. 立候補の承認

立候補が承認されたら、3ヶ月以内にオーガナイザーと CIVL との間で契約を締結する。契約は、大会前9ヶ月までに締結しなければならない。

## 3.7. 会議の手続

### 3.7.1. 議決

議題で、その事項が議題としてあげられているのであれば、会議前又は会議中の修正動議を含め投票の結果が有効である。

### 3.7.2. 議題にあげられていない事項

議題にあげられていない事項も、出席代表又は代表代理の3分の1以上が合意すれば、討議することができる。

## 3.8. 投票権(BL5, 5)

FAI 付随定款第 5.5 項によれば、各 FAI 会員は代表を通じこの投票権を行使することができる。代表がこの権利を行使することができないときは、代表代理が代わって行使してもよい。FAI 会員の代理がないか出席できないときは、他国の代表又は代表代理を代理投票者に指名してもよい。1国の FAI 会員の代表又は代表代理は、他の1国の代理代表権しか行使できない。投票権を委任された代理代表は、総会開始前に CIVL 委員長に文書で通知し、代表又は代理に承認されなければならない。通知文書には、関係 FAI 会員の事務局長又は会長のサインが必要である。

## 3.9. 会議における投票(BL5-5)

郵送による投票は認められない。投票は挙手か無記名投票により行われる。1名でも代表者が要求したときは、投票は無記名で行われる。無記名投票が行われるときは、投票者が分かるような表示のある投票用紙は無効とする。白票は棄権として計算される。第 5.1.7、3.7.2、7.4 項で述べられた場合を除き、票決は、代表又は代表代理の単純多数決により行う。棄権を除き、有効投票数が2回続けて同数のときは委員長が決定する。

## 3.10. 修正案

討議中の事項についての修正案は、口頭で又は文書で行うことができる。CIVL 委員長又は代表が要求したときは文書で行い、投票前に書記が読み上げなければならない。修正案には、考慮に価する決議案

がなければならない。

#### 4. CIVL 総局(BL5.4.1)

##### 4.1. 構成

総局は、以下の局員により構成される：

- 局長
- 次長
- 書記
- 会計

全ての局員は、総局会議において投票権を持つ。第 5.3.2 項に並べられた事項を除き、他の者が局員の代理になることはできない。

##### 4.2. 会議

総局は、少なくとも年に1回、総会の直前に会議を開く。この外、局長の決定により、又は局長から文書による諮問があったときは会議を開くことができる。局の会議にはゲストを招待することができるが、ゲストに投票権はない。

##### 4.3. 職務と権限 (BL5.4.2)

総会は、総局に責任の一部を委任することができる。委任については総会で明確に規定され、その決定には総局員の過半数が必要とする。次期総会以降にまたがる案件については、その総会での批准が必要で、そこで修正又は廃案となることもあり得る。

##### 4.4. 権限

総局は以下の条件の範囲において、CIVL の責任を遂行するために必要な適切な行動をとる権限を持つ。

- a. FAI 定款、付随定款、及びここに定められた内部規定を逸脱しない。
- b. 総会の決定した限界を逸脱しない。
- c. CIVL の決定した予算を逸脱しない。

##### 4.5. 総局の定数

総局会議は、CIVL 委員長が全局員に通知することにより召集される。総局の定数は、局長と他2名の局員からなる。局長は局員の意見を聞き助言を得てからでなければいかなる案件についても決定することはできない。

#### 5. CIVL の役員

##### 5.1. 委員長

###### 5.1.1 選出(BL5.4.4)

1年間任期の委員長は、総会における無記名投票により選出される。候補者は、各国代表による推薦投票により選ばれる。現職の委員長も候補となり得る。1回目の投票で過半数が得られないときは2回目の投票を行い、最多得票者が選出される。委員長は、何回再任されてもよい。

###### 5.1.2. 委員長の職務と権限(BL5.4.6)

CIVL 委員長は以下の権限と職務を持つ：

- CIVL を代表する。
  - 総会、総局会議及び小委員会会議を招集し、出席するか開会を確認する。
  - 総会及び総局会議の議長となり、FAI 定款、付随定款、スポーツ規定及び CIVL 内部規定に従うことを確認する。特に定められた場合を除き投票権はない。
  - CIVL の年次事業報告書を作成し、FAI 総会に出席して提出する。さらに要請されたときは、FAI 総会、執行役員会又は FAI 会長に特別報告書を提出する。
  - 会議の後30日以内に CIVL 書記が作成した議事録を点検する。
  - FAI エアスポーツ委員会の委員長会議及びエアスポーツ委員会総会に出席する。
- できれば、すべての CIVL 小委員会会議に出席する。

###### 5.1.3. 代議権 BL5.4.6.5)

CIVL 委員長は、FAI における出身国代表となることはできず、任期中、その国は代わりに代表者を任命

しなければならない。

#### 5.1.4. 名誉委員長(BL5.4.7)

CIVL は退任する委員長に名誉委員長の称号を贈ることができる。名誉委員は出身国の同意が得られたときは、その後の CIVL を会議に名誉委員長として招待され、出席し、参加することができる。

#### 5.2. 副委員長

##### 5.2.1. 選任(BL5.4.8)

委員長と同じ手続きで、代表の中から4名の副委員長を選出する。選任は得票数により決定される。

##### 5.2.2. 職務(BL5.4.9)

副委員長は、委員長に選任された場合を除き、出身国の代表を続ける。

##### 5.2.3. 再任(BL5.4.10)

副委員長は、選挙により再任されることができる。

#### 5.3. 書記と会計

##### 5.3.1. 選任(BL5.4.11,5.4.12)

書記と会計は、副委員長と同じ手続きにより選任される。立候補者は、CIVL の代表者又は代表代理である必要はない。書記と副委員長も会計係になることができる。

##### 5.3.2. 書記の職務

書記は、会議終了後18日以内に各会議の議事録を作成し、委員長及び FAI 事務局に送付する責任を持つ。

##### 5.3.3. 会計係は、総会の指示に従って CIVL の財務について責任を持つ。

#### 6. 小委員会

##### 6.1. 設置

CIVL は技術小委員会をおく。これらの小委員会は、それぞれの事業と責任に関する委託条件 (TOR-Terms of Refence)を持つ。委託条件は総局が作成し、CIVL の総会で承認する。委託条件については追録2を参照。全ての小委員会は、委員長を通じて定期的に CIVL に報告しなければならない。

##### 6.2. 議長

CIVL 委員長は、毎年、議長を指名する。

##### 6.3. CIVL のメンバーは、小委員会議長と話合った後希望の小委員会に参加する。議長は、自分以外の委員を7名に制限することができる。

##### 6.4. 投票

小委員会における各国の投票権は1票である。

##### 6.5. 責任

小委員会議長は、CIVL 委員長から依頼された緊急事項も扱い、CIVL 会議のための文書等を作成する。

##### 6.6. 決議

技術小委員会の決議及び勧告は、CIVL 総会の承認を受けなければならない。

##### 6.7. 現在の小委員会

###### 6.7.1. ハンググライディング・クラス1、2及び5の競技会

###### 6.7.2. パラグライディング(HG クラス3)ソアリング競技会

###### 6.7.3. パラグライディング・ランディングアキュラシ競技会

###### 6.7.4. 世界ハンググライディング、シリーズ(WHGS)競技会

###### 6.7.4.1. 責任

WHGS 小委員会は、スピードグライディングとエアロバティックの HG 競技会の全てに責任を持つ。

###### 6.7.5. 記録、記章及び飛行認定

###### 6.7.6. 安全及びトレーニング

###### 6.7.7. CIVL ビジネス小委員会

###### 6.7.8. スポーツ規定小委員会

###### 6.7.8.1. 構成

スポーツ規定小委員会は、以下により構成される。

- (1) -議長
- (2) -書記
- (3) -技術小委員会の議長

#### 6.7.8.2. 議長と書記

CIVL 総局は、毎年スポーツ規定小委員会の議長と書記を任命する。

#### 6.7.8.3. 決議

スポーツ規定小委員会の決議事項及び勧告事項は、すべて CIVL 総会で3分の2の多数決により承認されなければならない。

### 7. 作業部会

CIVL は、特定の事項又は提案について検討及び報告する臨時の作業部会を設置することができる。作業部会は、指定された課題を終わったときに解散する。活動中の作業部会の議長は、小委員会議長と同様に CIVL 委員長及び総局に報告をする。

### 8. 技術・連絡役員

必要に応じ、CIVL は技術又は連絡役員を任命する。技術又は連絡役員は任命組織に報告をする。技術役員は特別な課題を処理し又は特別な問題を解決するために任命される。連絡役員は CIVL の他の組織に対する関心事を処理する責任を持つ。

#### 追録2:

#### CIVL 小委員会への委託条件 (TOR-Terms of Reference)

ハンググライディング・クラス1、2及び5競技会の CIVL 小委員会  
パラグライディング(HG クラス3)ソアリング競技会の CIVL 小委員会  
パラグライディング・ランディング・アキュラシ競技会の CIVL 小委員会  
世界ハンググライディング・シリーズ競技会の CIVL 小委員会

#### 事業と責任

##### 1. CIVL の長期計画

CIVL 委員会は、常に CIVL の長期計画に設定された目的と目標に向かって活動するものとする。

##### 2. オーガナイザへの支援

小委員会は、できる限りの方法で予期されるオーガナイザーを支援する。CIVL 総会で承認された立候補については、少しでも良い大会とするようオーガナイザーを支援するのが、委員会の主要な仕事である。

##### 3. ファーストクラス・イベントに対する規定

CIVL の総会で立候補が承認されたら、小委員会はローカル・レギュレーションを討議する。

技術役員 (technical officer) は、委員会における不必要な作業を避けるためオーガナイザーが実施した準備作業チェックすることができる。この委員会は、大会参加費の額を討議し、それが通常の最低限でリーズナブルであることを確認する。またローカル・レギュレーションがスポーツ規定セクション7に従っていることを確認する。ローカル・レギュレーションはできる限り簡潔にし、セクション7の規定と重複しないようにまた変更をしないようにしなければならない。

##### 4. スコアリング・システム

委員会は、採用されるスコアリングシステムがセクション7の要件に従っていることを確認する。

#### 相互連絡と協力

##### 1. 他の小委員会

必要に応じ、上記各委員会は相互に協力する。

##### 2. スポーツ規定小委員会

議長には、スポーツ規定小委員会の一員となる。スポーツ規定の中で小委員会が希望する改定はこの議題

にのせる。

### 3. FAI-エアスポーツ・インターナショナル

小委員会は、エアスポーツ・インターナショナル誌に寄稿したファーストクラス・イベントの記事(画を含む)がすべて適切に掲載されていることを確認する。

### 4. 報告

小委員会の議長は CIVL 委員長に定期報告を行い、年2回、1回は総局会議と次には総会に、実施した事業と進行中の事業について文書で報告する。

## FAI/CIVL スポーツ規定小委員会

### 事業と責任

#### 1. CIVL の長期計画

委員会は、常に CIVL の長期計画に設定された目的と目標に向かって活動するものとする。

#### 2. スポーツ規定

スポーツ規定小委員会はセクション7についての改定案を CIVL 総会に提案し、合意に達した修正を維持する。

### 相互連絡と協力

#### 1. 他の小委員会

他の常設小委員会、すなわち選手権クラス1、2、及び5、選手権クラス3、選手権パラグライディング・ランディングアキュラシ、世界ハンググライディング・シリーズ、記章、記録及び飛行確認、教習・安全の各小委員会の議長はこの小委員会の一員でなければならない。

#### 2. 他の委員会

スポーツ規定小委員会は、スポーツ規定の総則編の改定を常に知っていなければならない。

#### 3. 報告

小委員会の議長は、CIVL 委員長に定期的に報告をする。またスポーツ規定改定の助言を総局に、チェックができるように年次会議の前に提出する。

## FAI/CIVL 安全・トレーニング小委員会

### 事業と責任

#### 1. CIVL の長期計画

委員会は、常に CIVL の長期計画に設定された目的と目標に向かって活動するものとする。

#### 2. IPPI カード

IPPI(International Pilot Proficiency Identification- 国際パイロット技能証明)カードの配布・推進システムを開発し、最新の状態に維持する。海外飛行が行われる場合、自国と他国とを問わずすべての国はパイロットの技能を確認するためこのカードを活用することが奨励される。

#### 3. CIVL 安全・トレーニングプログラム(セーフプロ及びパラプロ)

安全・トレーニングプログラムは必要に応じて改定し、最新の状態に維持しなければならない。

#### 4. 事故/死亡統計

委員会は、会員諸国のハンググライディングとパラグライディングの統計をとって分析する。このことは、このスポーツ、装備品、トレーニング方法、国際標準及び安全性の向上に寄与するはずである。

#### 5. 国際標準

委員会は、他の国際組織が実施していてハンググライダー又はパラグライダーのパイロットに影響すると思われる標準制定活動にできる限り参加する。

#### 6. 安全・トレーニングフォーラム

安全及びトレーニングに関する情報交換及び討議のためフォーラムを準備する。

### 相互連絡と協力

#### 1. 他の小委員会

記録、記章及び飛行確認のための小委員会その他必要に応じ他の小委員会と協力する。

## 2. スポーツ規定小委員会

議長はスポーツ規定小委員会の一員でなければならない。スポーツ規定の中でこの小委員会が改定したい事項はこのフォーラムで討議する。

## 3. FAI-エアスポーツ・インターナショナル

委員会は、エアスポーツ・インターナショナル誌の中から FAI/CIVL の安全・教習計画及びこの分野における CIVL の活動に関する記事を手に入る。

## 4. 報告

小委員会の議長は CIVL 委員長に定期報告を行い、年2回、1回は総局会議に、次いで総会に、実施した事業と進行中の事業について文書で報告する。

## 追録2( ? )

### 2003年2月21日の CIVL 総会における委員長報告

#### 総局の活動

2002年には以下の世界選手権が開かれた

- ・ スロベニアでヨーロッパ HG 選手権
- ・ スロベニアでヨーロッパ PG 選手権
- ・ 米国のシェランで世界女子 HG 及びリジット選手権

総局員は、これらの大会にスチュワード(訳注:競技委員長のアドバイザーで、大会の進行状況を監視する)及びジューリー(訳注:陪審。競技委員長に提出された抗議について審理する会議をまとめる)として積極的に参加した。さらに、以下のテスト・コンペティションを行い、スチュワードとして参加。

- ・ ブラジルで HG ワールド・ミート。Dennis Pagen がスチュワードとして参加。
- ・ ポルトガルで PG ワールド・ミート。Sarah Fenwick がスチュワードとして参加。
- ・ スルベニアで PLA ワールド。Riikka Vilkuna がスチュワードとして参加。

この前の CIVL 総会では Euro PG 2004 と世界女子 HG/リジットについて立候補がなかった。私達のルールに従って総局が努力した結果以下ようになった。

- ・ ギリシャが Kalavrita で Euro PG 開催を受け入れる。私はカテゴリー2大会のときに同地を訪問し、テイクオフ・ポイントを広げるなどすれば、サイトは十分に可能とみられた。彼らは今年、テスト・コンペティションとして PWC 大会を開く予定である。
- ・ 世界女子 HG 及びリジットについて、私達はオーストリアと日本との間で選択し、結局総局はオーストリアに決定した。私は必要などきに提案してくれた同国の NAC に感謝するとともに、次の2006年の大会に日本が申請することを期待している。

10月、Dubrovnik(クロアチア)で開かれた FAI 総会に参加。

10月末、Pleguien(フランス)で開かれた3日間の総局会議で、私達は総会の開催時期と議案を検討した。

1月末、私は CIVL 及び Europe Air Sport President としてエジンバラで開かれた EHPU 総会に出席した。

当時 EHPU はヨーロッパ中部の7つの連盟で構成され、この連合に招かれていた Nordic 諸国が出席していた。

この前の EAS 会議で、EHPU は EAS のオブザーバとして、また EAS 機構の中の HG と PG 作業部会として活動することが受け入れられ、Klaus が EHPU 代表として任命されていた。

御存知と思いますが、EASA は JAA (訳注:Joint Aviation Authorities) が制定した諸規定をメンバー諸国に実施される航空当局となるべく EU 内に最近創設された。

すでに実施されている EASA の規定では、HG と PG の耐空性と整備に関しては権限外である。また EAS はライセンスと運用についても HG と PG は EASA の管轄外とし現状のままその国の法律下に置くよう提案している。

唯一の問題点はパイロットの自由な移動と考えられるが、これも IPPI カードとゲストルールで解決している。幾つかの国は IPPI カードを適切に発行していないことを私達は知らされている。総局は、そのような国が発行する IPPI カードはこの問題が解決されるまで信頼できないことすべての NAC に警告することを決定した。これは、このシステムの信用性のためである。

空域は、依然として私達が直面しなかなければならない問題である。EAS が代表となって参加している Eurocontrol Air Space 専門家会議(task force)では引き続き FLZ 高度を討議している。EAS はフライトレベル135を主張し、

それ以下をアンノウン、できればクラ G とすべきであるとしている。

空域の問題は明らかに Eurocontrol のレベルで討議すべきであるが、ローカルでもローカル管制当局と話し合うべきで、EHPU は、英国の Tom Hardy を議長として空域作業部会を設立する必要があると考えており、ECAC(訳注: European Civil aviation Conference) に所属するすべての国の NAC はそれぞれの空域管制当局との調整について報告することが求められている。以上で終わります。

### 追録3

#### H G 小委員会作業部会議事録

2003年2月20日、Sinaia

議長 - Dennis Pagen

出席者;

Jim Zeiset	Riikka Vilkuna	Niels Askirk	Didier Mathurin
John Aldridge	Paula Bowyer	Flip Koetsier	Angelo Crapanzano
Flavio Tebaldi	Rudl Burger	Zlato Vukicevic	Ljubomir Tomaskovic
Unay Kutlay	James Freeman	Lutfi Yuzuak	
午前の休憩後;	Aust Gudmunson	Zlato Vanic	Luiz Niemeyer
午後;	Koos de Keyzer	Giovani Vitola	

#### 中止したタスクの得点計算

タスクが途中で中止された場合、不成立とはしないで、その時点での得点を計算に入れることができる。

このように決定した場合、得点は、タスクが中止された時点の GPSトラックログ上の位置により計算する。

途中までの得点を計算に入れることもありうるタスクとその状況は、ローカルレギュレーションに規定しておく。

小委員会を、Didier Mathurin, John Alredge, Angelo Crapanzano, Luiz Niemeyer により構成し、タスク中止時の選択につき検討する。

採決;賛成10 反対1

#### 広告

全員がFAI付随定款の中の広告についての部分を読んだ。我々はこの文書を適用すること及び以下の修正について来年票決することを総局に希望した。

1) オーガナイザーは、広告の場所を右翼前縁に、またその大きさを0.25m<sup>2</sup>以下に指定することができる。

広告内容の表示位置は、右翼下面とし、大きさは50cmx50cmとする。

2)スポンサーの申請時期は、現行6ヶ月前であるが、これを30日前に緩和する。

3)広告にはナンバーを記入する。

上記の追加は、ブラジルにおける2003年世界選手権にて発効するものとする。

上記満場一致で合意。

#### メダル

メダルの費用については、オーガナイザーが6個以上の費用を負担しなくてすむようにすることで合意した。

このメカニズムは、立候補の過程とローカルレギュレーションの適用で、既にコントロールされていると考えられた。

満場一致で合意。

#### 控除事項

公認規定の中で特に適用を免除してもらいたい事項があったときは、パイロットの属する国のNACが、そのパイロットの国際競技経験を証明する資料を添えて申請する。

これは、少なくとも当該選手権の60日前までに CIVL PR Co-ordinatorに提出、受領されなくてはならない。

賛成 11 棄権 1

## Section 7 の変更

以下2点の変更がある;

### 第 5.27.1 項 テイクオフウィンドウのオープン時間

テイクオフウィンドウのオープン時間は、競技者の人数と同時に使用可能なランチポイントの数に基づく。[...] テイクオフウィンドウは、安全なテイクオフが可能な時間が指定されたミニマム時間以上あるか、又は、選手権に登録され且つテイクオフにいるパイロットの90%がテイクオフしたかどうか、が適切に考慮される。  
満場一致で合意。

### 第 21.5.1 項 ミニマム・トラックログポイント

ハンググライディングの競技会では、パイロットのトラックログに、設定されたタスクの管理される点(訳者注:ターンプointやスタートポイント、ゴールなど)を証明するに十分なトラックポイントを含んでいなければならない。トラックログの有効性に疑義を生じたときは、第 21.5.8 項が適用される。パラグライダーの競技会についてはここではルールの変更なし。  
満場一致で合意。

### 第 21.5.7 項 第2段落

得点方法としてGAP2002が使われる場合、スタート時間の証明がないパイロットについては、ウィンドウオープン時間をスタート時間とする。

### ターンプointの記録 第 1.5.8.1 項

第 1.5.8.1 項に次の補助的段落を追加する。

第 1.5.8.2 項 ターンポイントのセクター。ターンプointのシリンドーは、GPSの座標と半径により規定することができる。距離記録は、特定されたセクターに入ることによって可能な最小限の距離で記録される。

満場一致で合意。

### 優先権システム

優先権システムは、望ましくないことであると決定された。

### クラスによるプッシュシステム

複数のクラスが同じ時間帯にテイクオフもしくはレーンを使用する競技においては、所定クラス用の優先レーンを指定することができる。優先権を与えられたクラスでは、そのレーンでプッシュシステムを採用する。当該クラスでないパイロットはプッシュされる。当該クラスでないパイロットは、優先権を与えられたクラスをプッシュすることができない。

満場一致で合意。

### タスクアドバイザー・コミッティ

構成員の提案。

オーガナイザー(競技委員長も可能)より 1名

スチュワード、1名

最新世界ランキングのトップ10より選ばれた1名

競技委員長により選ばれた地元パイロット、1名

トップ10以外のパイロットより1名

ブラジルでの世界選手権で試み、成功した場合セクション7に含めることにつき満場一致で合意。

### セーフティ・コミッティ

ブラジルでの世界大会においては以下の構成とする:

奇数のパイロット3名又は5名で構成し、チームリーダーが推薦した候補の中からパイロットが選ぶ。(選ぶ側のパイロットは現行世界ランキングのトップ10以外とし、無線を携帯しなくてはならない。

成功した時、セクション7に含めるよう次年度の総会で提案する。  
満場一致で合意。

#### ローカル規定

ブラジルでの世界選手権のローカルレギュレーションを承認する為、小委員会を組織する。John Aldredge (Jury Pres.), Dennis Pagen (Steward) & Flip Koetsier (Team Leader) で構成される。プレ・ヨーロッパ選手権の為にローカル規定が受領されていないため、Flip Koetsier が調査し、次期総会で全体を審査する。

#### 追録4

### PG小委員会報告

#### 総会への提案

出席: 日本、フィンランド、リトアニア、スイス、ドイツ、ギリシア、フランス、オランダ、ほか...

#### バラストの規定 33kg

作業部会はバラストの上限33kgを許容限度なしで厳守するよう勧告する。

賛成: 10、反対: 0

#### 世界ランキングの最終期限

世界ランキングの最終期限(世界選手権の4ヶ月前)がマニラオープンとニュージーランド選手権の間になるので、(ブラジル2003世界選手権の)この最終期限を4日間遅らせることを勧告する。

賛成: 10、反対: 0

#### 中止されたタスクの成立要件

- レーストゥゴールの場合、一名のパイロットが既にゴールしていること。
- スピードランの場合、ある数(ローカルルールで決められる。現在は20%が勧告されている)のパイロットがゴールしていること。

作業部会はタスクストップの時の成立要件として上記を勧告する。

賛成: 10、反対: 0

#### 世界選手権及び大陸選手権に参加するパイロットの技術を確認する選抜基準

- ワールドカップ競技会でのトップ3分の2以内の成績

又は

- 100km以上のクロスカントリーか競技フライト

又は

- クロスカントリー及び競技経験(セクション7記載の要件)に基づくCIVL選抜委員会による決定。

世界選手権及び大陸選手権の選抜にあたっては同基準を確実に守るよう勧告する。

委員会は、来年のために選抜委員会の手続きをさらに正確にしたいと考えている。

賛成: 10、反対: 0

#### カテゴリー2大会の3分の2、選抜ルール

次のことが考えられる:

- 次回のアジア選手権では、日本と韓国の2国のみが確実に参加するであろう。
- いくつかの国(台湾、中国、インド、ネパール etc.)には、選抜基準を満たす良いパイロットがいるが、事前にカテゴリー2の大会に参加できそうにない。

さらに、このルールは安全性には直接関係していないことも考慮し、これら新興国の参加を断ることなく選手権を成立させ、また、このエリアでのスカイスポーツを発展させるため、作業部会は次回のアジア選手権ではセクション7の中でこのルールの適用除外を提案する。

賛成:7、反対:0、棄権:1

#### 2004ヨーロッパ選手権

ギリシア、Kalavrita:2004年6月30日～7月12日

インターネットサイト: [www.hellenic-paragliding.gr/pwc](http://www.hellenic-paragliding.gr/pwc)

#### 2005年世界選手権

ブラジル、Governador Valadares:2005年3月11日～3月27日

エントリーフィー:500US\$

フランス、Morzine/Avoriaz Les Gets:2005年6月25日～7月9日

エントリーフィー:375Euro

Urs Dubach(CH)が、上記二つの立候補のプレゼンテーションを行う。

#### 追録5

アキュラシー・ランディング作業部会

議長:Riikka Vilkuna

[riikka.vilkuna@swipnet.se](mailto:riikka.vilkuna@swipnet.se)

ワーキングセッションの計画はないが、この一年の間に1回の会合を開き、総会で承認されるべきいくつかのルール変更が提案された。

#### セクション7の追録

##### 第23項 パラグライディング・アキュラシー・ランディング

##### 第23.1項 目的

この競技の第一の目的は、パラグライディング・アキュラシー・ランディングの世界又は大陸の個人及びチームの選手権者を決定すること。

##### 第23.1.1項 勝者

それぞれのカテゴリーの勝者は、合計点が一番低い個人又はチームとする。

##### 第23.2項 適格

##### 第23.2.1項 パイロット

エントリーは各人の所属するNACの全てのメンバーにオープンであり、次の条件を満たすこと:

・パラグライダーをカバーする有効なFAISポータリングを持っていること。

・各国のパラグライディング・パイロットライセンス

パイロットは、運用限界の範囲内で全ての風及び気象状況においてテイクオフできる能力を示さなければならない(ローカル規定に定められるテイクオフ方法による)。

##### 第23.2.2項 ナショナルチーム

パラグライディング・アキュラシー競技会のミニマムのチーム規模は5名とする。チーム規模はローカルレギュレーションに規定される。

##### 第23.2.3項 チームリーダー

各チームは、チームリーダーを持たなければならない。チームリーダーは、チームとオーガナイザーの連絡役を担う。チームリーダーは、チームメンバーの適切な振る舞いに責任を持ち、またメンバーが病気や他に危険を及ぼす恐れのある障害にかかっている場合にフライトしないこと、そしてルールを理解していることを確認する責任がある。チームリーダーは、大会から、チームメンバーを除外する権限をもつ。

#### 第 23.2.4 項 パラグライダー

競技は、全てのクラス3 ハンググライダー(セクション7)に門戸が開かれている。

#### 第 23.2.5 項 個人装備の規定

レスキューパラシュートの装備を義務付けるかどうかをローカルレギュレーションに規定する。

競技者の靴のかかととつま先は、自動計測装置を損傷しない形状及び素材でなければならない。

#### 第 23.2.6 項 能力を向上させるドラッグ

能力を向上させるドラッグは禁止されている。FAIは、国際オリンピック委員会(IOC)により禁止されている薬物の使用を禁止している。

#### 第 23.2.7 項 ペナルティ

競技委員長は、不当行為、スポーツに相応しくない振る舞い、または競技規則を守らないことを理由に、パイロットにペナルティを与えたり大会から失格させる権限を持つ。

### 第 23.3 項 サイトと設備

#### 第 23.3.1 項 ターゲット

ターゲットの場所は全ての方向からのランディングができなければならない。ターゲットの位置は、競技委員長(CIVILスチュワードがアドバイスできる)の裁量により決定する。ターゲットの位置は、大会中変更できるが、同一ラウンド中は変更してはならない。

ターゲットの中心には、対照色(黒地に黄色が望ましい)の直径3cmの中心円板をもつ自動計測装置を設置しなければならない。自動計測装置は、最小距離を15cmとし、以下/cmの目盛りをつける。装置は、しっかりしたベースプレートの上にセットされ、測定場で可能な限りフラットに固定されていなければならない。

(ターゲット設定のガイドライン:

- ヒル・ランチ: 地図上の距離と高さの比は(テイクオフエリアとターゲットとの間)は最大で5:1とする; 最小高度差は200m)

#### 第 23.3.2 項 計測場

計測場は、競技者のスコアが計測される平らなエリアでなければならない。それは明確に表示された円で、中心に自動計測装置を設定する。明確に表示された円は、中心から半径0.5m、2.5m、5m、10mでなければならない。計測場の半径は5mとする。計測場には、パイロットの最初の接地を判定できるような準備(草地、砂地、カーペット...)が必要で、その位置するフィールドと同レベルでなければならない。

主審または大会審判は、計測場のまわりに競技会役員のみが出入りできるエリアを決める。このエリアはターゲットから少なくとも半径10mとし、境界線を地面に表示する。

#### 第 23.3.3 項 風向表示

ターゲットエリアの周辺に地面より少なくとも5m高い視認性を持つ吹流しと風向表示板を設置する。

#### 第 23.3.4 項 風速記録装置

ターゲットの50m以内で、地面より5~7mの高さに設置したセンサーで風速を計測し記録する。自動風速計測機器が故障した場合、審判員は、大会成立の為に地面より少なくとも2mの高さに設置された機械式計測装置にもどってもよい。

#### 第 23.3.5 項 気象情報

各競技日の気象情報をチームリーダー・ブリーフィングの時に提供しなければならない。情報はテイクオフと、もしくはインフォメーションボードにも掲示する。

## 第 23.4 項 競技

### 第 23.4.1 項 ラウンド数

可能な時間内で最大12ラウンド行う。競技の成立には少なくとも有効な3ラウンドが完結しなければならない。それぞれのラウンドで得られる結果は、そのラウンドが完結した場合に限って、個人とチームの得点として計算される(つまり、選手全員が得点もしくはペナルティを受ける)。

ラウンド途中で中断があった場合は、中止したところから再開する。

気象が許せば、競技会オーガナイザーの判断で競技の前に少なくとも1回の練習ラウンドを行う。

ローカルレギュレーションに定められている場合を除き、選手の数を減じる為の大会途中での足きり(cut)は行わない。

### 第 23.4.2 項 競技ナンバー(番号)

チームは、フライトする順番を決める為くじを引く。各国のチームメンバーは、エントリーフォームに記載された資料に従って、1, 2, 3, 4, 5, . . . . .の番号が割り当てられる。

くじで決められたチームのフライト順に基づき、各パイロットにはフライトの順番 / 競技ナンバーが割り当てられる: 各チームの1番のパイロットが最初にフライトし以下2番の人、3番の人と続く。

各パイロットは、ヘルメットに競技ナンバーを目立つように表示することが要求される。翼にも識別容易な方法で表示する。

### 第 23.4.3 項 テイクオフ

選手は、ランチ・マーシャルの事前の許可がない限り、競技ナンバーに従って公表されたフライト順で飛ばなければならない。

・ランチ・マーシャルが競技ナンバーをコールした時に、順番通りにフライトする準備ができていない競技者もしくは、ランチ・マーシャルの許可なしにテイクオフした競技者は、そのラウンドでの最大得点相当のペナルティが課される。

・フライトしないパイロットは、そのラウンドの結果の中でDNF (did not fly)と表示され、そのラウンドでの最大得点相当が記録される。

失格のパイロットは、そのラウンドの結果の中でDSQと表示される。

・テイクオフ時間の順序は、現場の状況と翼の性能レベルに拠る。

### 第 23.4.4 項 ウィンドダミー

ウィンドダミーは、毎競技日の競技開始時及び、一時中断など主要な時間区分の後に飛ばさなければならない。この時間区分はローカルレギュレーションで明確に規定する。ウィンドダミーはターゲットに着地するようにしなければならない。パイロットが気象状況を知る手がかりとなるからである。

### 第 23.4.5 項 パイロットの飛行間隔

パイロットの飛行間隔は、安全性を確保し、また他の着陸を妨げない高度差が得られるように決定しなければならない。ターゲット上での低高度での追い越しは許されず、危険フライトとして扱われる。

### 第 23.4.6 項 無線機

チームは、各パイロットとチームリーダーに1個づつ、無線機を携帯することが許される。無線機は安全面からと、チームリーダーと各パイロット間の通信の為に許される。無線機は、ターゲット上の気象状況などの、競技上有利となる情報の提供の為に使ってはならない。無線機その他の通信手段は、競技フライトを中断する緊急時を除き、ローカルレギュレーションで許可されない限り競技フライト中に使用しないものとする。許可される安全周波数は、ローカルレギュレーションに定められるものとする。

### 第 23.4.7 項 合図について

飛行中のパイロットへ安全上の理由からターゲットから遠ざかるよう伝える公的な合図: 計測場にいる人が赤い旗を明瞭に振る。

#### 第 23.4.8 項 ファイナルアプローチの定義

競技者は次の時、ファイナルアプローチを開始したと見なされる。競技者がターゲットへ向けターンをしてアプローチへ向かう最終飛行を開始し、飛行方向を大きく変えるつもりはなさそうであると審判が判断した時。このポジションからの競技者によるいかなる動作も、上記要因を減じることはない。

#### 第 23.4.9 項 リ・ランチ(再テイクオフ)

競技者は、自分のフライトに問題があったときは得点にサインする前に審判にリ・ランチを申請する。

競技者は、他の人と連絡をとる前に主審判及び大会審判を除きリ・ランチの申請を記録係に登録しなければならない。

リ・ランチが認められたとき、その競技者の異議のあったフライト得点はキャンセルされる。

リ・ランチは、オーガナイザーの判断により、認められたラウンドの途中か、最後に行われる。

もし、リ・ランチが認められなく、パイロットが得点にサインしない場合、異議申立て(Complaint)となり、異議申立ての時間が記録され、そのパイロットに知らされる。

リ・ランチは以下の理由によってのみ認められる：

- ・風速が、競技者が着地点につくまでの30秒の間に、定められた上限を超えた場合。競技者が申請しなくてもリ・ランチを希望するか聞かれる。競技者はそのフライトの得点を受け入れるか、リ・ランチするかを選ぶことになる。競技者は、ただちにその決心をしなくてはならない。
- ・ファイナルアプローチの間、ターゲットが見えなくなった場合。
- ・審判が、自動距離測定装置をリセットできなかった場合。
- ・他の競技者との間の危険回避のため、安全上の理由によりフライトプランを変更し、ターゲットへのランディングをあきらめた場合。
- ・アプローチ中、誰が見ても明らかに影響を与えると考えられる顕著な外的要因があった場合。
- ・パイロットのプレフライトチェック不十分の結果ではない技術的問題(装備の不具合、例えば、ブレークコードが切れる、もしくはフライト中の大きなつぶれ、など)と審判が判断した場合、パイロットがターゲットへのフライトをあきらめたことを条件に許される。

#### 第 23.5 項 制限事項

##### 第 23.5.1 項 風速

得点計上のための最大許容風速を7m/s とする。競技フライト中、7m/s を超えそうに思われたときは、十分に風速が落ち着くまで競技を中止する。測定できない上層風はこの場合考慮されない。

##### 第 23.5.2 項 ターゲットの障害

ファイナルアプローチ中はパイロットのターゲットへの視界を妨げないようにしなければならない。

#### 第 23.6 項 得点計算

##### 第 23.6.1 項 計算方法

中心の円板の端から着地点 - 最初の接地点 - までの距離をmとcmの単位で点数が計算される。着地点が、円板上の場合、0.00mの点数となる。

- ・測定場所外にランディングすると点数が最大となる。つまり、測定場の半径の長さとなる。
- ・ランディングは足によらなければならない。落下は認められない。落下の場合、最大点数が与えられる。
- ・落下とは、足以外の体の一部もしくは装備品(ハーネスの一部を含む)が、翼が接地する前に接地した場合。
- ・両足で着地したとき又は、それら足の最初の接地点(かかと、つま先...)が特定できない場合、足跡の一番遠い点が測定される。

##### 第 23.6.2 項 自動計測装置

自動計測装置は、ミニマム15cmまで計測する。競技者は得点を記録するため自動計測装置を可動させるよう要請しなければならない。自動計測装置が故障しているとわかっていて最初の接地点がパッド上であった場合、審判は手動で計測することができる。

### 第 23.6.3 項 個人得点

個人の得点は、与えられた点数の合計となる。5 回以上の有効なラウンドが成立した場合、もっとも良くない得点は除き、計算される。

### 第 23.6.4 項 チーム得点

各ラウンドの国別チーム得点は、そのラウンドでのチームメンバーのベスト5の合計で計算される。

5 人以下のチームの場合、各ラウンドでの最大得点が、不足しているパイロット人数分の各パイロット得点として集計される。(つまり、3 人のチームの場合、その3 人の得点の合計と、3 人のうちの最大得点×2 を足したもの) チーム得点では最も悪い得点の切り捨てはなく、ベスト5 人の得点が各ラウンドのチーム得点として計算される。

### 第 23.6.5 項 同点

チーム:

公式競技の最後で、上位3 チームのいずれかが同点の場合、状況が許せば、それらチームのすべてのメンバーが追加のフライトを行い、チーム得点を計算する(23.6.4)。それでも同点の場合、同点でなくなるまで繰り返す。十分な時間がない場合、主審の判断により、各チームで指名された1 名の間でのフライオフとする。

個人:

上位3 人内が同点であった場合、状況が許せば、2 人(もしくは同点であった全員)による追加フライトを行う。これを同点でなくなるまで繰り返す。追加のフライトで得られた得点は、除外することは出来ない。

### 第 23.6.6 項 得点の有効性

1 つのラウンドが終わったら記録係はできる限り速やかにそのラウンドの得点を(明瞭に日時を添えて)主掲示板に“PROVISIONAL”と銘打って掲示する。いかなる抗議(プロテスト)をも、掲示より3 時間以内に提起されなければならない。掲示より3 時間たったら、そのラウンドは“OFFICIAL”と宣言される。プロテストフィーはローカルレギュレーションに定められる。

### 第 23.7 項 異議申立て(Complaints)及び抗議

異議申立てと抗議は、セクション7 と総則(General Section)に従って扱われる。陪審員(Jury)は受理してもよいが、決定の助けとするためのビデオの証拠を受けとるようには要求されない。決定はそれぞれの抗議に対し、個別に為される。

(訳注:総則第 5.1.3 項によれば、競技中の抗議は、チームリーダーが競技委員長に対しておこなう)

### 第 23.8 項 審判

本規則は、FAI カテゴリー1、国際PGアキュラシー・ランディング競技会での判定のための審判規定である。

#### 第 23.8.1 項 審判チーム

審判は、競技者のパフォーマンスを監視し、記録し、計測することに適格とされた役員である。

審判は、高潔であり、公平公正な決定ができなければならない。

##### 第 23.8.1.1 項 審判チーム

完全なる審判チームは以下で構成される:

- ・主審
- ・大会審判
- ・3 人のフィシェット(fichet) 審判
- ・後方審判
- ・前方審判
- ・記録係
- ・ウィンドモニター

主審と大会審判を除き、理想的には7人、さらに交替及び休息のための要員として最低2人の予備を必要とする。審判チームの国籍は問わないが、少なくとも同時にターゲットにおいて2カ国以上からの審判がいなければならない。

#### 第 23.8.1.2 項 主審及び大会審判

世界選手権の主審は、オーガナイザーにより指名された適格者でなければならない。国際競技会の大会審判は、主審により指名された適格者とする。

主審又は大会審判は、競技者のアプローチ、風速上限、障害などに関して安全面を満たしていないと感じたときは、競技委員長の意見も参考にして、競技を一時的に中断する責任を持つ。

#### 第 23.8.1.3 項 審判規定(Judging Code)

指命されたすべての審判員には、遵守すべきこの審判規定の写しが配布される。もし、審判員が、競技期間中この審判規定を守らなかったり、不正行為を働いた場合は、主審によりその指命を取り消される場合がある。

#### 第 23.8.2 項 職務

##### 第 23.8.2.1 項 フィシェット審判チーム

フィシェット審判チームは3人からなり、計測場において一人が風上に向けた位置で、他の2人が120°の角度で配置につく。パイロットの最初の着地点に特に注意し、すべての接地を監視する。

自動計測装置は第23.6.2項に規定したとおり最小15cmを記録する。自動計測装置が故障しているとわかり、パイロットの最初の着地点がパッドの上であった場合、審判が手で計測する。

最初の着地点が自動計測装置の測定範囲外でかつ計測場の中であった場合、フィシェット審判はパイロットの着地点と認められる所に目印を付け計測する。

最初の着地点が同時に2つ以上あったと判断される場合は、最も遠い最初の着地点を計測する。

競技者の結果が計測されると、コーラー(caller)に指名された審判チームの一員が得点を記録係にコールし、記録係は得点を再度読み上げる。

##### 第 23.8.2.2 項 前方審判と後方審判

前方審判と後方審判は2名のチームで、風上と風下の計測場外に配置される。フィシェット審判が邪魔でよく見えないときは多少左右に動く。彼らは、競技者の身体の位置に注意し、最初の着地が右足か左足か両足で為されたかを確認する。また、競技者が落下したかどうかも判定する。

前方審判と後方審判は判定を口頭ではなく、次の合図で知らせる：

・右足か左足か

右手か左手。肩の高さで直角に伸ばす。前方審判は競技者本人にとっての左右ではなく、自分で見た方の腕を使う。

・両足

両手を体の前方に伸ばす。胸の高さで、手は全部伸ばし、手のひらは下面に向ける。

・落下

左手を頭上に掲げる。

・見えなかったとき

両手を体の前面で下に伸ばし、手首のところで交差させる。

ターゲットにおいて審判グループ(大会審判、3人のフィシェット審判、前方及び後方審判)のうち2人が、最初の着地点において他の審判に同意しないときは、自動的にリ・ランチとなる。

##### 第 23.8.2.3 項 記録係

記録係はコーラーが知らせる競技者の記録を再度読み上げ、公式ログシートに記録する。

競技者は得点にサインしなければならない。

記録係は、ログシートに、各ラウンドの開始、終了及び一時休止時間を記録する。

#### 第 23.8.2.4 項 ウインドモニター

ウインドモニターは、競技者のランディング前30秒間の風速を監視する。  
風速が上限を超えたときは、公式ログシートに記録する。

#### 第 23.8.2.5 項 大会審判

大会審判は、審判チームのリーダーであり、ターゲットエリアのスムーズな運営に責任をもつ。また、チームの一員に短時間の審判職務の変更を指示したり、エリア内で一部の審判職務を引き継ぐこともできる。また、競技者同士の空中又はファイナルアプローチでの隔離に責任をもつ。

大会審判が条件が危険になっていると考えたとき、主審及び競技委員長と協議し、一時的に競技を中断することができる。大会審判、主審及び競技委員長が大会中断に合意しなかったときは、3者の多数決で決める。

#### 第 23.8.2.6 項 主審

主審は、審判チーム全員の審判水準を確保することに責任を持つ。主審は、競技開始に先立ち、すべての審判を集め、ブリーフィングをする。

主審は、すべての必要な機材・装備が使用可能で正常に稼動することを確認する。また競技者に対するすべてのブリーフィングに出席し、要すれば選手に対しブリーフィングをしなければならない。

主審は大会審判が完全に適切な管理をしていないと判断した場合を除き、ターゲットエリアの運営を妨害しない。審判チームに欠員がでたようなときは、主審は一時的措置として、大会審判の職務を代行することができる。

主審は、競技の一時中断のリクエストがあった場合、できる限り速やかに競技委員長と協議する。主審は、ターゲットエリアにいつも少なくとも2カ国以上からの審判がいることを確かにしなくてはならない。

主審は、競技会における審判員とその職務の記録を保持する。

## 追録6

### 安全およびトレーニング委員会

Klaus Tanzler 委員長によるレポート

ブラジル、カナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイスランド、日本、リトアニア、オランダ、スロベニア、スウェーデン、スイスが参加。

安全は場所、タスクの設定、パイロットの資格、飛行用具および得点システムによって左右される。すべての要素を改善しなければならないとしながらも、今回は飛行用具のみにスポットを当てることに我々は同意した。議論を公明正大さ、安全、実行の可能性の3項目に分けて行い、その後シリアルクラスの提案に対して表決した。

#### 公明正大さ

色々と論争があったという問題について、耐空証明のないコンペ機(セクション7 第5.13.2項による機体)はコンペパイロットの誰もが使えるようにするのかあるいはワークスパイロットのみとする。

#### 安全

現在のところ、セクション7の第5.13.2項のルールは十分には強制されていないというのが会議参加者の共通の感じである。

ドイツ、フランス、日本、およびスイスは「シリアルクラスは大会の安全に実質的貢献をしていない。」とコメントした。

極端に寝そべった姿勢でフライトするパラグライダーパイロットにとって、ライザーのツイストは大変危険なものである。ツイストしてもレスキューシステムは開傘できるように調整しておかなければならない。

#### 実行の可能性

カテゴリー1のイベントにシリアルクラスを導入するには効率の良い管理システムが必要である、と大部分の参加者が同意した。

大会において、シリアルクラスの機体が実際にシリアルクラスの機体であるとのようにして証明するのかについて議論したが、大変難しいとの意見であった。

投票：耐空証明のないコンペ機を禁止すべきか？

賛成5、反対9、棄権1

投票：既存のクラスにシリアルクラスを追加すべきか？

賛成6、反対9

CIVL セーフティネット・ウェブ

午後の参加者：カナダ、デンマーク、フランス、ドイツ、リトアニア、スウェーデン。

CIVL セーフティネット・ウェブのページにすべての国で入手できるよう各国のマニュアル(トレーニングマニュアルなど)ならびに適切な事故報告書、各国の連盟の登録メンバー数、その傾向を示すリストを掲載するようになることを歓迎する。フレッド・ウイilsonが担当となる。

追録7

## 曲技およびワールドエアゲームズ

オリビエ・バージェルのレポート

先回のFAI総会で、次のワールドエアゲームズを2005年に開催することが決定されている。

新しいフォーマットは前回のものよりずっと縮小され、クロスカントリー競技を含まないことになった。

主眼はメディア受けする競技のみにおかれる。目的は大衆を惹きつけることにある。

イベント開催場所は飛行場とし、競技期間は1週間で飛行場の空いている時間を利用する。我々の種目には全員が開会式に参加できるよう山のサイトが飛行場に隣接し、選手全員が選手村に滞在することが望ましい。

参加者人数は900名以下とする。

ハングとパラでは次の種目を開催することができる。

山のサイトがあればハングでのスピードグライディングの個人戦および1対1のマッチレース。

湖の近くに山のサイトがあればハングとパラの曲技種目を行うことができる。

ハング、パラ共にポンツーンへのアキュラシー・ランディング種目を組み合わせることもできる。

適当な山のサイトがない場合、飛行場でのエアロトウによるハングの曲技種目およびウインチトウによりパラのアキュラシー・ランディング種目を行うことができる。

私は、これらイベントが世界のトップパイロットを招待するという競技フォーマットで行われることに関するEHPU(ヨーロッパ・ハング・パラユニオン)所属連盟の見方を懸念している。

パラグライダーでの曲技に関しては少し進展が見られた。

私は、曲技に関する国際ルールを起草するため個人的に曲技作業部会を招集した。その目的はCIVLがこの種目を管理し、カテゴリー2となる曲技ツアーの結果に基づく国際ランキング制度を確立することである。

今のところ、来年(2003年)に5つか6つのイベントが開催されそうである。最初の一連のルールが起草され、意見を徴収するために回覧されている。2003年中での実施に向けこのルールを完成させるため、この作業部会の次回会議がこの3月に予定されている。

すべての競技会がFAI公認カテゴリー2の大会となるはずで、NACの承認が必要である。

この種目が既に存在し発展していることを理解することが大事である。もしCIVLが管理しなければ、以前混乱した状況が持ち上がったワールドカップツアーの再現を見ることになるであろう。

新ルール作成の方向で作業が進められるようEHPUから明確なメッセージが来ることを切に期待している。

2002年11月曲技に関する会議議事録抜粋

この会議の目的は：

一連の国際ルールをまとめる。

曲技がNACに承認されるよう行動することを決定する。

曲技大会を発展させるためにどのような組織が必要であることを確認する。

持ち上がった問題点:

- 1) このスポーツは NAC により組織されるが、それらのほとんどは曲技を無視するか公式には承認せずに黙認するだけで、禁止している国もある。  
最初のステップが FFVL(フランスハング連盟)により踏み出され、今年(2002年)から曲技の大会を公認している。この事項は、EHPU のレベルで討議する必要があると指摘されている。オリビエ・バージェルは、2003年1月の次回 EHPU の会議でこの件について提案する。
- 2) 用具: CEN(ヨーロッパ規格委員会)でヨーロッパ規格を制定しても、この種のグライダーを市場に出すリスクを負うメーカーがあるとは思えない。マイクによれば、このことが、DHV が曲技のトレーニングコースや大会を振興しない理由であるという。しかし特定のパイロットに、自分のところのグライダーを使って曲技大会に参加することを承認するメーカーも既に出て来ている。
- 3) 保守が問題であるとの指摘がなされた。頻繁に曲技を行うパイロットは、短いサイクルでグライダーを交換しなければならない。そのためメーカーは指名したパイロットが定期的にメーカーによる点検にグライダーを出すように、曲技大会での使用の承認期間を出来るだけ短く(15日未満)する結果となりそうである。
- 4) パイロットの技術: 今日までのところ曲技大会はほとんどがプロである非常に技術レベルの高いパイロットに開放されている。大会が発展するにつれ、明らかに未熟な新しいパイロットが参加する可能性がある。これらのパイロットは危険であるので、会議では CIVL の中で曲技 PG プログラムを制定し、その中に曲技レーティングを設けて曲技競技に参加するにはその資格の取得を義務づけるようにすることで合意した。既にその方向で作業にかかっていたダヴィッド・ユーロは2003年3月末までに最初の草案を起草することを提案した。この草案は、曲技を発展させたいと考えるインストラクターおよび NAC が使えるように曲技パラプログラムとして2003年末までに完成させるべく回覧される。
- 5) それまではそれぞれの大会の前に、大会参加の技能があることを証明するためにおのおの、難易度の異なる2本のテストフライトを行う予選を開催することを決定した。そこで要求されるマヌーバーは危険ではないものがルールに含まれる。ダヴィッド・ユーロがそれらのマヌーバーについても起草する。大会主催者は有名な曲技パイロットに対して予選を免除できることとする。期日は2003年3月とする。

大会かあるいは単なるショーか:

競技にしたい者とそうでない者として長い討議が行われた。マイク・クングは時として個人として、時として DHV の立場から発言し、競技会とすることに対し安全と公正さの観点から反対論を展開した。最終的に、来シーズン前の次回会議で最終決定する国際ルールの中に上記の事柄を盛り込むことを条件に、来年(2003年)曲技ツアーを開催することを全会一致で確認した。

曲技ツアーに要求される組織はどんなものか:

オリビエ・バージェルは、後に常設小委員会とすることも考慮に入れた曲技作業部会を提唱した。彼は FAI カテゴリー2の曲技大会参加パイロットは所属 NAC が発行した FAI スポーティング・ライセンスが必要で、1人分の参加費に相当する公認料を CIVL に納めるようにしようというものである。

そのメリットは:

すべてのイベントが CIVL カレンダーに掲載される

カレンダー上の日程調整が可能となる

パイロットが望む形での曲技 WPRS(世界ポイントランキングシステム)を創設することが可能となる

NAC が公認資料を発行する必要性が生じ、それはある意味で曲技を承認することにもなる。

この提案は受け入れられ、オリビエ・バージェルが昨シーズンのツアー主催者に国際ルールを発行し、来シーズンの主催者はそれに基づいてツアーを実施することになったとする手紙を起草することが決定された。

さらに彼は改善されるべき問題点を明らかにする予定である。

CIVL カレンダーに組み入れられ、カテゴリー2イベントとして公認されれば、主催者はルールに従わなければならないことになる。

承認:

オリピエ・バーゼルは、2003年1月のEHPU会議に曲技とワールドエアゲームズに関する事案を追加するよう委員長に申し入れる。

総会において承認をとりつける質問事項:

この資料をあなたがたの理事会あるいは評議会で討議されることを望みます。というのも私は CIVL 総会で以下の質問に対する明確な答えを聞きたいと思っていますので。

1.この資料に提示されたように、CIVL が曲技の管理をすることを承認しますか？もし答えが NO であるならば曲技は統制が取れない状態が続き、事故が起きた場合我々のスポーツにとって悪い結果を招くことになります。

2.上記したものを次回 WAG のプログラムとして承認しますか？

## FAI ワールドエアゲームズ 大会関連資料 スピードグライディング スピードラン・ラウンド

エアスポーツ委員会:CIVL

スポーツ種目:ハンググライディング

大会概要

大会内容:

これはダウンヒル個人競技で、スキーのように最も早い者が勝利者となる。

コースには、ゲートとターンポイントを設置する。

ゲートの高さは 6m で、パイロットはパイロンのトップより下を通過するように飛ばなければならない。

ゲートの数は 4 箇所から 6 箇所が良い。

斜面が急なときは、高度を落とすため十分なターンポイントが必要となる。

これらのターンポイントはどのような高さで回ってもよい。

各ゲートおよびターンポイントには審判を配置する必要がある。

この競技は、サーマルコンディションにならない早朝に実施すべきである。

20 名のパイロットで、最大 1.5 時間ほどかかる。

理想的なサイトは、スキーダウンヒルコースのあるスキー場である。

天候は、よい視界を保證するように十分晴れていなければならない。

コース全体が見渡せれば、曇天でも問題はない。

観衆への解説:

観客は主にランディング場付近に集まるから、ランディングエリアにはフェンスで囲って入らないようにする。

タイムを発表し、競技を面白いものにするための解説者が必要である。

更に、各パイロンにも人が集まりやすいから監視が必要である。

観客との交流:

観客および VIP のため、タンデムフライトを考えなければならなくなるかもしれない。

この場合、オーガナイザーはタンデムグライダーの資格を持った専門のパイロットを捜すべきである。

大会実施上のインフラ

ASC(エアスポーツ委員会)関連のインフラ:

この種の大会のために、CIVL は委員会が受諾できる一人の大会実行委員長を要求する。委員長はスピードグライディングを理解し、最低限、以前に同様な大会の組織に参加していなければならない。

さらに、CIVL は一名のスチュワードと3名で構成する内部指名陪審員を任命する。

彼らの旅行、食事、宿泊、およびケータリングのコストはオーガナイザーが負担しなければならない。

WAG オーガナイザー関連インフラ:

ターンポイントおよびゲートに 15 人の審判。

テイクオフにスタートマーシャル、タイムキーパー、競技委員長および助手を含む 5 人の役員。

ゴールにタイムキーパー、翼面荷重計測役員、成績集計および観客のための司会者を含む 5 人の役員。

開催場所がこのイベントにのみ使える場合、2、3 名の秘書を含めて、情報/認可オフィスが利用可能であること。

## FAI ワールドエアゲームズ 大会関連資料 スピードグライディング マッチレース・ラウンド

エアスポーツ委員会: CIVL

スポーツ種目: ハンググライディング

### 大会概要

大会内容:

晴天でサーマル条件がよい午後に、2 名のパイロットによるマッチレースを行い、負けた選手を除去する。

その後、最終的に 1 名の勝利者が出るまで、おのこの勝者が 1 対 1 で競技を続ける。

山頂のサイトはテイクオフレーン 2 つ分の幅と、テイクオフに引き続いてトップランディングが出来る十分な広さがなければならない。

コースはテイクオフからゴールまでの線の両側に約 1km の間隔で配置された 2 つのターンポイントで構成される。

両方のパイロットは同時にテイクオフし、サーマリングで必要な高度を獲得し、2 つのターンポイントを経由しゴールラインをクロスする。

先にゴールラインをクロスした方が勝利者となる。最終的な勝利者は 2 時間で決定することができる。

スキー競技と同様な施設がこの競技にも使える。

### 観客への注意

大会は全て山頂で行われるので観客はテイクオフとランディングを邪魔しないようフェンスで区切って監視する。

予選ラウンドや勝利者についての説明をする解説者が必要である。

### 観客との交流:

一日中、タンデムフライトができるようにする。

### 大会実施上のインフラ

ASC 関連のインフラ:

スピードラン関連資料の内容と同じ CIVL スタッフ

WAG オーガナイザー関連インフラ:

マンパワー:

安全性の確保、ターンポイントおよびゴールラインの管理、競技の指示および観客のための解説者などを含め 12 名で十分である。

## FAI ワールドエアゲームズ 大会関連資料 曲技(エアロバティック)

エアスポーツ委員会: CIVL

スポーツ種目: ハンググライディング & パラグライディング

### 大会概要

大会内容:

イベントはウイングオーバー、ループ、タンプリング、ループとこれらフィギアの組み合わせを含んだ、各種マヌー

バーで構成される曲技の競技から成る。  
プログラムは規定競技と自由競技に分かれる。  
ハンググライダーにはソロプログラム、パラグライダーには 2 名のパイロットによるチームのシンクロプログラム、およびソロプログラムの可能性がある。これはローカルレギュレーションで最終的に決められる。  
ポンツーンへのアキュラシー・ランディングは観客に非常に魅力的であるが、これはサイトが淡水湖上空の場合にのみ行うことができる。  
これらのプログラムは 5 名の審判の中の 1 名の陪審によって記録される。  
安全上の理由によりマヌーバーは水、できれば淡水の上空で実施しなければならない。  
プログラムを始める最低高度は 500m で、ポンツーンへのアキュラシー・ランディングが計画される場合以外は、100m でプログラムを終了しなければならない。

#### 観客への解説

観客席に隣接する水面の上空をフライングボックスと呼ぶ。そして、オーガナイザーは、大会をエキサイティングにするため解説者を配置しなければならない。  
商品化と宣伝のため、ビデオの製作も必要である。

#### 観客との交流:

同様に、タンデムフライトと展示も観客に魅力的である。

#### 大会実施上のインフラ

##### ASC 関連インフラ:

競技委員長と 5 名の審判が必要である。

上級審判はスチュワードを兼任することができる。

CIVL により任命された 3 人のメンバーから構成される指名陪審員は、それぞれのイベントがあまり離れていない場所で開催されるのであればスピードラン大会のために任命されたものが兼任することができる。

スピードグライダーと同様、オーガナイザーは彼らの旅行、食事、宿泊およびケータリングのコストを負担しなければならない。

##### WAG オーガナイザー関連インフラ:

##### マンパワー:

テイクオフにはテイクオフマーシャル(テイクオフディレクター)と 4 名の補助で 5 名。

最低 5 名の審判。

コンピューターマネージメント 6 名。

ランディング、2 ~ 3 名。

##### 安全管理者:

3 隻のボート、10 名プラス 3 名のダイバー(フル装備)

競技委員長

総合司会者: 1 ~ 2 名

#### 装備

3 隻の救助ボート

無線機と携帯電話

スピーカー

観客席を囲むフェンス

水上アキュラシー・ランディング用ポンツーン

発煙筒

FAI ワールドエアゲームズ  
大会関連資料 曲技  
パラグライディング・ランディング・アキュラシー

エアスポーツ委員会: CIVL

スポーツ種目: パラグライディング

大会概要

大会内容:

ワールドエアゲームズ 2005 のためのパラグライディング用、アキュラシー/精度競技フォーマット:

競技の目的は、競技者がパラグライダーで特定の空域(恐らくターンポイントの周囲)へ飛行し、特定の地点に着地し、正確にコントロールすることを実証することである。対地高度は最大で 500m、対気速度は 35-40km/h である(これは管制官が空域をコントロールするための目安の数値として記載している)。

競技者構成は、男女に関係のない個人およびチームよりなる。

これらのフォーマットは、山からのテイクオフができず、離陸方法がトウイングかウインチ曳航による飛行場あるいは同様のサイトのために設計されている。

タスク

飛行場が時間と場所で他の航空種目と共有される場合、次のタイプのアキュラシー(精度)競技を行うことができる:

- a) 通常のとウイング/ウインチによるテイクオフで、電子ターゲット上に降りるパラグライダー・アキュラシー・ランディング。ウインチは高度約 250m でリリース。規則は添付している。
- b) 通常のとウイング/ウインチによるテイクオフで、水上のポンツーンに降りるパラグライダー・アキュラシー・ランディング。ランディングはできる限り電子ターゲットを使用する。添付した規則が使用できる。
- c) 電子ターゲットのランディングとスラロームの組み合わせ。  
トウイング/ウインチによる高度は、通常のアキュラシー・ランディングのときより高くとも。  
このオプションでは、電子計測装置に降りる前に、競技場に設置されたターンポイントを回らなければならない。  
このオプションは、目標に小さなボール(あるいはウエイト)を落とす爆弾落としと組み合わせるか、それに変更することができる。  
パッドスコア(電子ターゲットランディング)はスラローム/爆弾落としの得点を 2 倍にすることができる。  
このオプションでは、最もポイントを得たパイロット/チームが勝利者となる。  
添付の規則は修正しなければならない。
- d) ガンサイト(照準眼鏡)タスク。  
高度をとり、ポール上のリングを見通してディスクと重なる位置へ飛んでいく競技。  
高度はトウイングかウインチで通常のアキュラシー・ランディング競技のときより高くとも。  
審判は担当ディスク内にビデオカメラをセットして目撃者と共に座り、リング内の簡単な十字線を通るパイロットをフィルムに収めることにより、パイロットが目標を捕捉したことを確認する。  
目標を捕捉したパイロットには、明るい光を向けて知らせる。  
地上に 2 個または 3 個以上のディスクと高いポール上の 1 個のリングを設置することもできる。  
最初のリングの照準には、離脱高度ごまかしながらも容易に滑空していけるようにし、2 番目のリングにはより遠く高く上昇しなければならないようにする。  
3 番目は、そこを狙っているとランディングエリアに届かないリスクを伴う距離とする。  
電子ターゲットへの着陸を組み合わせてもよく、パッド・スコアはガンサイト・タスクの得点の 3 倍とする。  
このオプションでは、最もポイントを得たパイロット/チームが勝利者となる。  
添付の規則は修正しなければならない。

観客への解説

すべてのオプションで、観客は、ターゲットのまわりおよそ 25-50m の距離(ターゲットが地上にある場合)に位置して競技をフォローする。

観客は、ターゲットエリアの両サイドと風上側に位置することができる。

審判エリア内に 1 名のアナウンサーを配置する。

観客がターゲットエリアへ侵入するのを防ぐための境界テープを張る以外には、観客エリアに特別な準備をする必要はない。

観客との交流:

タンデムフライトの準備をするのも良い。さらに、イベント中、パラグライダー/ハンググライダーのフライト・シミュレーターを使用することも可能かもしれない。さらに、スポーツの展示も可能である。

### 大会実施上のインフラ

ASC 関連インフラ:

この種の大会について CIVL は、以前に同様な競技の運営経験のある委員会に受諾可能な競技委員長を要求する。

さらに、CIVL は一名のスチュワードと内部指名された陪審(計 4 名)を任命する。

これらの人の旅行、食事、宿泊およびケータリングのコストはオーガナイザーが負担しなければならない。

WAG オーガナイザー関連インフラ:

審判は 6~9 名とし、主審が指名する。

旅費節減のため、大部分の審判は開催国の出身者とする。

2 名のオブザーバ、(3 名の陪審)、2~3 名のウィンチ・オペレーター、2 名のランチマーシャル、2~3 名の助手(ウィンチのライン・レトリバー)、1 名の記録係及び風向風速監視員、アナウンサー、得点記録係(およびターゲットが水上にある場合、救助艇のスタッフ)。

### CIVL 総会ホストへの立候補

オーガナイザー : クロアチア航空連盟

場所 : Rijeka の近くの Opatija

日付 : 2004 年 2 月

宿泊設備 : ホテル Ambassador (\*\*\*\*\*)

宿泊設備料金 : シングル・ルーム 1/1 55 ユーロプラス昼食または夕食各 10 ユーロ、あるいはビュッフェスタイル 12 ユーロ

ダブル・ルーム 1/2 一人につき 40 ユーロプラス昼食または夕食各 10 ユーロ、あるいはビュッフェスタイル 12 ユーロ

CIVL 代表のための便宜:

宿泊、

輸送の組織 - 空港/ホテル/空港、

CAF (クロアチア航空連盟) 会長による歓迎会、

開会式、

観光旅行、

閉会バンケット、

記念品、

\* \* Croatian 航空は、CIVL 参加者にザグレブへまたは経由する航空チケットを特別割引で提供します  
クロアチア航空連盟

以上